

シンギュラリティ高等学校

楽しく学べる環境を追及し ウェルビーイング向上を目指す

AI・ITスキルを駆使し、自分の力で幸せをつかむ人を育むシンギュラリティ高等学校。2025年4月の開校以来、通信制高校らしい自由度の高さを活かし、生徒の個性を最大限に伸ばす教育に取り組んでいる。同校事務長の白石直也氏にこれまでの手応え、教育の特徴、今後のビジョンを聞いた。

広島では14年ぶりの学校新設 2045年を幸せに生きる力を養う

——学校名に「シンギュラリティ（技術的特異点）」を用いた狙いはどこにありますか。

変化の激しい今日、2045年にはAIが人間の知能を超えるシンギュラリティの時代が到来すると言われています。本校の名前には、そうした時代に幸せに生きていける力を育成したいという思いが1つにはあります。もう1つ「シングル」の部分にも大きな意味が込められています。本校は広島で実に14年ぶりに開校した学校です。子どもたちの学びのニーズが多様化しているにもかかわらず、一人ひとりの「個」の成長に特化した学校をつくるのは容易ではありません。個、つまりシングルを大切にするという意味も含めて、シンギュラリティ高等学校と名付けました。

本校は、学校教育法第一条に定められた正式な通信制高等学校です。年度途中の転入・編入生を含め、現時点の生徒数は243名です。通

白石 直也 SHIRAIISHI Naoya

学校法人幸和学園 シンギュラリティ高等学校 事務長
広島市の小学校で14年間教諭として勤務し、教育委員会推薦により国の研修に参加(市内2名選出)。教育現場で培った実践的知見と、大学時代まで続けたサッカー経験を生かし、A級ライセンス保持者としてコーチング分野でも活動。現在はシンギュラリティ高等学校の設立に携わり、開校1年目で250名を擁する同校のCEM(運営総責任者)として、個々の強みが社会で生かされる学校づくりに尽力している。



一人ひとりのフロー体験を重視 AIに負けない考え抜く力を

——どのような教育に重点を置いていますか。

AI・ITスキルを駆使し、自分の力で幸せをつかめる人を育むという点に大きな教育目標を置いています。私たちは「フロー(flow)」という言葉をよく使います。ポジティブ心理学で言うところの、「活動に完全に没頭し、集中し、時間が経つのを忘れるほどの状態」です。誰しも熱中できるものを見つけると楽しさを感じます。自分が没頭できること、得意なことを

知っていることが、幸せになるための基本条件だろうと考えています。AI・ITスキルの習得自体が目的ではなく、生徒それぞれのウェルビーイングを目指すための道筋として、AI・ITスキルを位置づけています。

本校の生徒は本当に個性的で、部活動に一生懸命取り組んでいる生徒もあれば、週の半分ぐらい働きながら学んでいる生徒もいます。なかには、国から研究費をもらって各地で講演活動をしているとか、芸能活動をしている生徒もいます。スクーリングを2週間ごとにしているのも、各自の「フロー」と授業を両立しやすいようにと考えてのことです。

もちろん、一般的な教科の基礎学力向上も図りますが、多くの知識を詰め込むのではなく、身につけた知識が自分の生活とどう関わっているのかを考えられるようになることに主眼を置いています。通信制高校なのでレポート課題が中心となりますが、そこにAIとの対話を取り入れたりもします。

例えば社会科の授業では、反民主主義の発想を大量にインプットしたAIを職員側で生成し、そのAIの主義・主張をいかに論破するかに挑戦するというレポート課題を出したことがあります。きっちり根拠を示さなければ、逆にAIに論破されてしまいますから、民主主義とは何か、生徒なりに考え抜くトレーニングになります。

一般的な教科以外では、かなりクリエイティブな活動ができるのが本校の魅力です。動物を飼ったり音楽活動をしたり、生徒が本当に挑戦したいことを実現できるようサポートして

います。本校に転入してくるまでは、まったく勉強に身が入らなかった生徒が、動物と触れ合うなかで急にスイッチが入り、その後わずか半年ほどで卒業要件の単位をすべて取り、北海道にある動物の専門学校に進学したという例もあります。高い倍率を見事に突破して、保護者の方も驚いていました。高校生ぐらいの年齢だと何がきっかけでスイッチが入るか分かりません。そのためにも、様々なチャレンジができるよう、授業以外の活動メニューも豊富に用意しています。

ファシリテーターを事務局が支え フラットな関係性で生徒に伴走

——特徴的なカリキュラムの例をご紹介します。

カリキュラムの特徴の1つは、コーネル大学やシカゴ大学といった米国

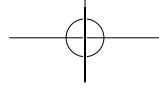
の名門大学で培われた教育メソッドと、科学的な未来予測に基づく「真に将来の役に立つカリキュラム」を取り入れていることです。

例えば、レゴ®ブロックを用いた対話の手法である「レゴ®シリアスプレイ®」を採用しています。これはレゴ®グループとマサチューセッツ工科大学メディアラボの研究から生まれた手法で、世界中の名だたるグローバル企業でも組織開発・人材育成の研修メソッドとして導入されています。心理的安全性や対話の質を高めるレゴ®ブロックを用いることで、自分の考えや気持ちを言葉で伝えたり、自分自身をメタ的に認知したりすることが苦手な生徒でも、楽しみながら自分を表現できるようになります。

こうしたユニークな教育メソッドを進めるうえで、重要な役割を果たして



山陽本線向洋駅から徒歩1分と好立地の向洋駅前キャンパス。MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島なども手掛けた仙田満氏による設計。



いるのが「ファシリテーター」の存在です。本校には「先生」はおらず、ファシリテーターと呼んでいます。さらに、職員はもちろん、生徒も「〇〇先生」ではなく「さん」付けて呼んでいます。そのほうが、不要な上下関係を生まず、何でもフラットに話せる関係性を築きやすいためです。

ファシリテーターの最も大事な仕事は、個性豊かな一人ひとりの生徒に向き合うこと、さらに生徒を導く手法の研究です。全国的に教員の働き方改革が言われていますが、本校では、とにかくいい授業をすること、そのために学内外の様々な人とつながり、社会課題にアンテナを張りながら、生徒の困りごとに寄り添い奔走していくこと。ここにファシリテーターの勤務時間の大部分を充ててもら

い、その他の事務は事務局が担っています。

現在は8名のファシリテーターが活躍しています。新卒採用で着任した方もあれば、牧場経営を核にまちづくりに携わっている方もあり、非常に多彩なバックグラウンドを持ったメンバーで構成されています。勤務時間をかっちり決めているわけではないので、働き方もかなり自由度が高く、副業も推奨しています。ファシリテーター自身が本当の意味でのアントレプレナーでなければ、社会のことを教えられないと考えています。

——開校以来の手応えをどう捉えていますか。

まず、開校間もない2025年6月、文部科学省認定の「DXハイスクール」に採択されました。

開校初年度で、しかも通信高校で採択されたのは、おそらく全国初の事例ではないかと思います。お陰で広島県内のほとんどの大学から指定校推薦の枠をいただいています。また、様々な企業でのインターンシップの機会も設けており、就職への足がかりとなっています。

多様な個性を持った生徒のなかには、私たちのスピード感を超える勢いで貪欲に学ぶ姿勢を見せる生徒が大勢います。

例えば、あるファシリテーターが業務の一環で北海道の起業家サミットに出かける際、試しに生徒にも呼びかけてみたところ、一緒に行きたいと手を上げた生徒がありました。それをきっかけに、その生徒は将来のキャリア像の解像度が上がったようで、グンと積極的になり、様々な活動に参加するようになりました。ほかの生徒にも働きかけ、文化祭のときに地域のお店で生徒たちが一日スタッフとして働けるよう企画を持ちかけるなど、自ら動くようになりました。ほかにも、ファシリテーター同士が勉強会を開いていると知るや、「その勉強会、僕たちも入れてくださいよ」と直談判する生徒もいます。開校から半年が経ち、「自分たちがしたいことを、本当にしていいんだ」と生徒たちが分かってきた様子が実感として日々伝わってきます。

日本初のソーシャル・ビジネス科 広島と世界をつなぐ未来を描く

——来春、高等学校としては日本初となるソーシャル・ビジネス科を新設すると伺いました。

卒業の条件として、通常の授業のほか、課題解決型の「特別活動」を3年間で30時間するというのを定めています。本校は広島市からもほど近い安芸郡の本キャンパスのほか、呉市東部の自然あふれる環境にある安浦キャンパスがあります。安浦キャンパスは廃校をリノベーションして生まれ変わったキャンパスで、廃校が出るぐらいですから、周囲は過疎地域なわけです。祭りの担い手も減っているとのことで、つい先日、約40名の生徒でお手伝いに行ってきました。

た。生徒たちにとっては、地域の方と話をするだけでも刺激になり、次は廃校を活用したイベントをしてみようといった話も出ていました。また、瀬戸内海に浮かぶ大崎下島でも、地域創生に携わる地元の団体と組んで、課題解決のお手伝いをする1週間程度の研修ツアーを企画したりもしています。

ソーシャル・ビジネス科は、こうした活動実績を体系化し、企業や行政機関と連携しながら、地域社会の課題を見出し、その解決に向けて、生成AIなども駆使して、ビジネスの手法とデジタル・テクノロジーの両方を活用し、持続的に社会課題解決を担える人材育成を目指す専科として設立します。探究支援活動に強い一般社団法人アンカーと提携し、協働で同科を運営することにしており、今まさに教育課程を練っているところです。

——今後力を入れたい取り組みや挑戦したいプロジェクト、目標や

ビジョンをお聞かせください。

本校の運営母体である学校法人幸和学園では、広島県内のほか、タイで日本人家庭の子ども向けの幼稚園を運営しています。そこでタイを拠点に、広島と東南アジアをつなぐ人材交流プログラムをつくれないかと考えています。広島の社会課題を解決できる人材を育てることで若者の人口流出を防ぐ一方、生徒たちにはグローバルな視野も身につけてほしい。また、タイの方々にもっと日本を知っていただくきっかけにもできるかもしれません。

通信制高校は「広域性」と「狭域性」に分かれますが、本校は狭域



特徴的なカリキュラムの1つがレゴ®ブロックを用いた授業。言葉だけに頼らないコミュニケーション手法として注目されている。

性のため、現在の募集対象は広島県と山口県に限られています。でも、これではせっかくのいいカリキュラムがもったいないと思っており、広域性への移行認可を申請中です。そうならば、日本全国から、さらには海外からも生徒を募集でき、タイとのネットワークを有効に活かせるようになるだろうと考えています。世界にも視点を広げたいという意欲を持つ日本の生徒にとって、また日本の優れた教育を受けたいと願う海外在住の生徒にとっても、いっそう魅力あふれる高校を目指していきます。



学校生活のあらゆる場面で「個」に合わせたサポートが徹底されている。



自然あふれる環境にある安浦キャンパス。生徒たちが地域とつながる拠点としても機能する。